

# 特集

## 自閉症スペクトラム障害 ——新しい発達障害の見方

従来、「自閉症」と言われてきた発達障害のひとつは、心理学において、常に興味の対象となり、「心の理論」からのアプローチを含めて、数々の研究がなされてきました。近年、この「自閉症」の見方が大きく変化しています。それを端的に示す言葉が、「自閉症スペクトラム障害」です。何がどのように変わったかは、本特集で明らかにされていますが、正常から異常まで、自閉症をスペクトラム、つまり、連続体として捉える見方です。

この背景には、「障がい」に対する考え方の変化や、その支援や教育における根本的な方針転換があると言ってもいいでしょう。そして何より、ノーマライゼーションやインクルージョンの考え方が一般のものとなりつつあることも見逃すことはできません。

本特集では、医学、心理学、教育学、そして、当事者の立場から、新しい視点による「自閉症スペクトラム障害」の見方を示していただきました。皆さんとともに、発達障害について見直してみる機会になればと思います。

(近藤清美)